

## 目的をもった読書を

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 夏の終わりや秋の初めの季節の変わり目のこの時期は、本格的な読書の絶好の季節です。  
(2) 読書をするときには、ただ漫然と本を開き、文字を追うことも楽しいかもしれませんが、しかし、目的をもった読書は、読書の楽しみを倍増させます。  
(3) たとえば、読書の目的の一つは「時空を超えた著者との対話」です。
  2. (1) 「論語」を読むことで、孔子や、論語を編纂した孔子の弟子たちとの、2500年という「時空を超えた対話」ができます。  
(2) 「源氏物語」は紫式部との、「風姿花伝」は世阿弥との、「奥の細道」は松尾芭蕉との「時空を超えた対話」を可能にします。  
(3) 石田梅岩の書き記した「都鄙（とひ）問答」、福沢諭吉の「文明論の概略」で、江戸時代、明治時代の代表的な思想家のお二人と「時空を超えた対話」をすることができます。
  3. 知識を得るための読書もあります。  
(1) アンドレモロワ著の「フランス史」「英国史」「アメリカ史」を読めば、アンドレモロワというフランスの思想家の目を通して、3つの国の歴史を学ぶことができます。  
(2) 東京書籍の高校「世界史 B」の教科書の全文英訳「英語で読む高校世界史」を、一行ずつしっかり読み込めば、世界史と英語の知識を同時に身に付けることができます。  
(3) 手から離れなくなってしまったスマホが、どのように作られたかを知りたいときは、ウォルター・アイザックソン著の「スティーブ・ジョブズ（1）（2）」を読めばとてもよく理解できます。
  4. (1) 読み始めた本のシリーズ本をすべて読むことや、好きな作者の本を全部読むことを、読書の目的にすることも素晴らしいと考えます。  
(2) 2年前に、モンゴメリ作の「赤毛のアン」の第1巻を読んだ私は、あまりの面白さ、学ぶことの多さに何か月かかけて12巻まで読み終えてしまいました。  
(3) 高校生の頃に夏目漱石が好きになった私は、夏目漱石や、漱石の友人の正岡子規の本を1年に何冊か読むようになり、いつの間にか、二人の作品の大半を読んでしまいました。今は、同じ本を何回も読み返し、漱石や子規はやはりいいなと実感しています。
  5. (1) 作者のゆかりの地や記念館を訪れることも読書の楽しみを深めます。  
(2) 時々、子規が晩年を過ごし、漱石が訪れた、東京・日暮里の「子規庵」を訪問しています。  
(3) 樋口一葉の作品展示が見られる、東京・三ノ輪の「一葉記念館」も大好きです。
- 夏の終わりや秋の初めには、「目的をもった読書」を。

2017年8月30日(水) 9時19分